

新渡戸文化中学校・高等学校

「サイエンスアゴラ2024」への出展

発想を促すファシリテータ を生徒たちが担当

新渡戸文化学園(平岩 国泰理事長)、新渡戸文化中学校・高等学校(東京都中野区)の生徒の「実験教室ラボ」が東京大学生産技術研究所(以下、生研)の松山桃世准教授と共同で、10月26、27の両日、お台場のテレコムセンタービル・日本科学未来館で開催された「サイエンスアゴラ2024」へ出展された。同校は27日に出展。今回の出展で、3年連続3回目の採択となる。主催は科学技術振興機構(JST)。「サイエンスアゴラ」とは、あらゆる人に開か



前左から荒深さん、永井さん、瀧野さん、後列左から松浦さん、長橋さん、連沼教諭

尚子教授の研究について講演をしてもらった。来場者は、カードに記されたさまざまな最新技術



発表する生徒

このイベントに向けて、着々と準備をしてきた。サイエンスアゴラは、さまざまな人が対話し、協働し、創造するところがポイントだ。生徒たちはこの場で社会とのつながりをもつという貴重な体験を得た。生徒たちに感想を伺った。荒深歩さん(高校1年)は、「イベントでは来場者の人と対話するのが楽しかったです。いいイベントになったと思います」。松浦悠和さん(高校1年)は「私は3回目の参加です。自分なりに成長を感じました。今回はサポート役に徹しました」。瀧野由香子さん(高校1年)は、「ワークショップでは、会場の人たちに多くの意見を聞いてもらい、いい経験になりました。自分の苦手な部分がいまさらになりました」。永井杏樹さん(中学3年)は、「私は3回目の参加となります。全体的な進行をさせていただき、時間調整に対応できたと思います。成長したと思います。これからこの経験を生かそうと思います」。長橋心鈴さん(中学3年)は、「来場者とのコミュニケーションが大事だと思いました。多くの回答を出していただき正解はないと分かりました。いい思い出になりました」。

このイベントに生徒たちをサポートしてきた連沼一美教諭は「3回目の今回は生徒たちには場所を譲り、良い雰囲気の中で、生徒たちの笑顔が絶えず、良い雰囲気になったと思います。来場者は小学生から年配の方まで来ていただきました。生徒たちが素晴らしい場をつくってくれました。多様な世代の方と対話することにも力を尽くしてくれました。生徒たちの今後の活躍にも期待しています」と生徒たちを高く評価する。

挑戦する学び(Challenge Based Learning)で、生徒たちがそれぞれの学びや問いから始まる社会課題に挑戦する教育が特徴だ。

今年も「実験教室ラボ」は生研の松山准教授と連携したカードゲーム「Cross Curriculum」を用いて、来場者にアイデアを出してもらう。ゲストの学びをさらに発展させた学びが、社会課題に「自己修復プラットフォーム」を研究している吉江の中核「自己修復プラットフォーム」と自由に組み合わせ、チームごとに異なるテーマ「医療」「ファッション」「家具」「食品」について新しい技術の使い道を発想した。この最新技術は生研で研究されているもので、カード表には技術の名前が、裏には技術の概要と用途例が書かれている。このカードを掛け合わせ発想を促すチームのファシリテータを同校の生徒たちが担当した。

生徒たちは来場者から、意見を集め共有し、解決策を生研の吉江教授と松山准教授に伝える役目を担う。二人からは「発想がいろいろで、研究の幅が広がった」、「科学や技術の使い方を専門家に任せず、自分で自由に考えてみる楽しさに気づいてもらえたのでは」と好評だった。

このイベントに参加した生徒たちは、夏休みを利用して、松山准教授とオンライン等を利用し、このイベントに向けて、着々と準備をしてきた。サイエンスアゴラは、さまざまな人が対話し、協働し、創造するところがポイントだ。生徒たちはこの場で社会とのつながりをもつという貴重な体験を得た。生徒たちに感想を伺った。荒深歩さん(高校1年)は、「イベントでは来場者の人と対話するのが楽しかったです。いいイベントになったと思います」。松浦悠和さん(高校1年)は「私は3回目の参加です。自分なりに成長を感じました。今回はサポート役に徹しました」。瀧野由香子さん(高校1年)は、「ワークショップでは、会場の人たちに多くの意見を聞いてもらい、いい経験になりました。自分の苦手な部分がいまさらになりました」。永井杏樹さん(中学3年)は、「私は3回目の参加となります。全体的な進行をさせていただき、時間調整に対応できたと思います。成長したと思います。これからこの経験を生かそうと思います」。長橋心鈴さん(中学3年)は、「来場者とのコミュニケーションが大事だと思いました。多くの回答を出していただき正解はないと分かりました。いい思い出になりました」。

このイベントに生徒たちをサポートしてきた連沼一美教諭は「3回目の今回は生徒たちには場所を譲り、良い雰囲気の中で、生徒たちの笑顔が絶えず、良い雰囲気になったと思います。来場者は小学生から年配の方まで来ていただきました。生徒たちが素晴らしい場をつくってくれました。多様な世代の方と対話することにも力を尽くしてくれました。生徒たちの今後の活躍にも期待しています」と生徒たちを高く評価する。